池田文書の研究（二十一）

池田文書研究会

萩原三圭の書簡について

一、萩原三圭の略歴

三圭は、土佐長岡郡西野地村に天保十一年十一月十一日（『転免物故履歴書』によれば弘化四年十二月）生まれる。名は守教、通称三圭、号は象堂。慮庵とも称した。

安政六年二月二十五日緒方洪庵に入門。のち長崎の精得館に入学し、マンスフェルトやボードウィンに就く。

明治元年八月長崎を発ち、高知藩の藩費によりヨーロッパに留学。明治三年十月ベルリン大学に入学、医学を修める。明治六年三月解剖組織・生理学ならび動植鉱物学等の試問に及第し医学士候補となる。同年七月帰朝。このとき第一大学区医学校（のち東京医学校）の解剖学教師としてヴィルヘルム・デーニッツを伴なう。同月二十日文部省八等出仕となり医学校出勤。同年十二月五等教授となる。明治七年東京医学校の教授となるが、事情あって辞職。明治八年六月二十八日京都療病院解剖学教授専務となる。明治十二年五月十四日療病院医学校の初代校長となる。明治十四年七月十六日京都府立医学校教授となる。明治十五年二月府立療病院出仕となるが、同年九月辞職。同月中央衛生会雇となる。

明治十七年八月自費によりドイツ留学、ライプチッヒ大学医学校においてカンヂダートルメヂケネーの資格をもって病体解剖組織学・内外科・産科・婦人科・衛生学・眼科・薬剤学とくに小児専門科等を研究。明治十九年七月ドクトルの学位を受け、九月ウイーンに移り婦人・小児専門科の臨床を研究。同年十二月帰朝。

明治二十年一月二十二日侍医局勤務となり、翌二十一年五月二十二日侍医となる。明治二十七年一月十五日没、年五十五。谷中に葬られる。

（参考文献・侍医寮編『転免物故履歴書』、富村太郎『萩原三圭の留学』昭和五十六年）

二、萩原三圭の書簡

三圭と謙斎とは、長崎精得館およびベルリン留学時代において修学をともにした知友であり、書簡の端々にその親しい関係がうかがわれる。

書簡二三九四は、謙斎がドイツから帰国直後東京医学校の校長代理となった時期のもので、同校を辞職して京都に移っていた三圭の心境を吐露している。

書簡二四〇一は、三圭の侍医局出仕の際のものである。三圭は久宮静子内親王の不豫に召されて侍医局勤務が命ぜられたとされるが、その背景には謙斎の誘いのあったことが知れる。謙斎が三圭に敬意をはらい、自分の留守中の侍医局長官

代理に三圭を起用しようとしていたことが書簡二三九六に見える。

岡玄卿の書簡について

一、岡玄卿の略歴

玄卿は、嘉永五年七月十八日美作津山に津山藩士岡芳蔵の子として生れる。

明治元年家督を継ぎ、東京に出て大学東校に入学し、ドイツ人教師ミュルレルおよびホフマンに内科を学ぶ。明治九年東京医学校を卒業。同年三月教師附となり、同年十二月医院当直医となる。明治十年十月東京大学医学部助教となる。明治十四年七月東京大学助教授に任ぜられる。

明治十七年四月四等侍医に任ぜられ、文部省御用掛を兼勤し、また東京大学医学部勤務となる。明治十九年官制改革により侍医に任ぜられる。明治二十二年三月在官のままドイツへ私費留学。明治二十四年八月ヨーロッパより帰朝。明治二十七年七月侍医局長池田謙斎不在中、局長心得となる。明治三十一年二月二日侍医局長兼任となる。明治三十二年十一月医学博士の学位を授ける。同年十二年ペスト予防法審査委員長を命ぜられる。明治四十年男爵となる。明治四十一年一月一日官制改革により侍医頭となる。

明治天皇の発病に際して、青山・三浦両博士とともに侍医頭として治療に当る。大正元年十月侍医頭を辞任し、宮中顧問官兼侍医寮御用掛となる。大正十四年三月二十五日没、年七十四。

（参考文献・侍医寮編『転免物故履歴書』）

二、岡玄卿の書簡

玄卿は、東京大学医学部卒業者の中で最初に侍医となった人で、謙斎の跡をついで侍医局長にもなっている。秀才の誉れが高く、侍医局の主事として、高階経本や相磯慥らとともに活躍している。

書簡三一一六は、この侍医局主事としての玄卿の姿を伝えている。書簡三一二一は学習院時代の明宮（大正天皇）の容体である。ほぼ同時期と思われる明宮の容体については、萩原三圭の書簡三三一一にもみえる。

相磯慥の書簡について

一、相磯慥の略歴

慥（まこと）は、旧名小柴平治、安政五年二月三日伊豆西浦村に生まれる。

明治十五年東京大学医学部を卒業。同年七月岐阜県医学校一等教諭に任ぜられる。明治十六年二月岐阜県病院内科医長を兼務。同年四月岐阜県医学校長を兼ねる。また岐阜県病院長を兼務。明治十九年医学校長および病院長を辞し、ドイツに留学。

明治二十一年七月侍医となる。明治二十二年侍医局主事を兼ねる。明治三十六年四月ドイツに留学を命じられ、五月出帆。明治三十八年三月帰朝。大正十三年侍医を免官となる。性剛直で、青山胤通や西郷吉義とともに、宮中では無愛想の三幅対と称された。

（参考文献・侍医寮編『転免物故履歴書』）

二、相磯慥の書簡

慥の書簡五通のすべては侍医局勤務時代のものである。岡玄卿と同じく侍医局主事を兼務していたので、その影響がみられる。書簡一〇九一に「主事月番」とあり、侍医局主事の仕事が月番の交代制だったことが知れる。

書簡一一一二は、明治三十六～三十八年の二度目のドイツ留学の際のものである。ベルリンにおける講義の模様のほか、北ドイツ・パリ・ロンドンなどを見学したことを報告している。

池田文書――萩原三圭書簡一覧

書簡番号		発信年月日（　）内推定	発信者名	受信者名	備　考
1	2394	明治　9年7月11日	萩原三圭	池田謙斎	先般首尾宜御帰朝
2	2397	明治　　年1月15日	萩原三圭	池田先生	当府医学校之改革
3	2401	明治　　年5月21日	萩原三圭	池田謙斎	宮内出仕の儀
4	2396	明治(20)年6月29日	萩原三圭	池田謙斎	長官閣下之御代理
5	2395	明治(20)年9月2日	萩原三圭	池田先生	荊婦之病気
6	2393	明治　　年1月14日	萩原三圭	池田謙斎	常宮御発熱御煩渇
7	2398	明治　　年9月8日	萩原三圭	池先生	宮様益御機嫌克
8	3311	明治　　年11月5日	萩原三圭	池田先生	殿下本日ハ学習院へ
9	2399	明治　　年3月9日	萩原三圭	池田	意外之御契闊
10	2400	明治　　年8月5日	萩原三圭	池田謙斎	水辺ニテ納涼

岡玄卿書簡一覧

書簡番号		発信年月日（　）内推定	発信者名	受信者名	備　　考
1	3121	明治(20)年12月19日	岡玄卿・片山芳林	池田謙斎	明宮殿下学習院試験中
2	3116	明治(27)年8月28日	岡玄卿	池田先生	代員御採用之義
3	3231	明治　　年9月19日	玄卿	池田謙斎	皇后宮御軽微御腹痛
4	3115	明治(35)年12月17日	岡玄卿	池田謙斎	賢息様無滞御婚儀

相磯慥書簡一覧

書簡番号		発信年月日（　）内推定	発信者名	受信者名	備　　考
1	1091	明治　　年9月26日	相磯慥	池田謙斎	東京府庁より試験の件
2	1093	明治　　年5月29日	相磯慥	池田謙斎	北白川宮之御懇召
3	1114	明治　　年5月10日	相磯慥	池田先生	サントニネ御用下ラス
4	1113	明治(30)年9月1日	相磯慥	池田謙斎	品川氏より侍医候補依頼
5	1112	明治(37)年10月7日	相磯慥	池田謙斎	ベルリンより留学報告

1　明治九年七月十一日

二三九四　萩原三圭　　池田謙斎

本月七日之書翰難有拝読仕候、先般ハ御首尾宣御帰朝、果而我道之本源御主宰相成候趣、是れ衆庶之御常渇望する所、自是方て真正之学術興隆せん事照鏡ニ鑒する如く、何幸加焉と為道亦為邦家恭賀不斜候、却説我職之中点なる東校ハ風涛起易所と曽て舞別之節拝承仕居なから懇篤之忠戒ニ背戻し当時之状態ニ立至候事実に遺憾之至、仮令世間之毀誉を不厭も先生に対して汗顔之至ニ御座候、就而は此烏有なる舊都ニ蟄居候も自招之思ひなれバ無理ならぬ事と嘸臍、猶難及悲嘆此事ニ御座候、抑一身之後悔談ハ閣き、先生御帰朝之上ハ彼明々タルパルタイ論は全く廃止一新して公平無私之美政被相行可申事不容疑儀と自他共ニ信仰仕処ニ御座候、満氏ゟ之御懇情相通可申や、当地療病院ハ猶一之欧教師にて万緒不充分、格別贅啓仕程之事も無御座候、目今之所にて凡ソ先年之崎陽ノ病院ニ髣髴たるものに御座候、先は拝賀旁以右迄如此ニ御座候、辰下権而未霽之候、厚御自愛被遊度専一ニ奉存上候、頓首拝復

七月十一日　　三圭敬白

池田先生

侍史下

二白、御隠居様奉初御一統様へ宜御福声被成下度奉憚候、再拝

2　明治　年一月十五日

二三九七　萩原三圭　池田謙斎

寒威難堪候得共、益御壮健可被為成御座奉大賀候、陳ハ今般当府医学校之改革ニ際シ校長半井氏東上被致候趣也、畢竟閣下之 theuern Rath[7] 被相願候儀ニ有之候間、何卒為道可然御画策被成下候様懇願仕候

従而小生儀ハ過日も拝啓仕候様 gelegentlich[2] 病院へ転務仕度心算ニ候得共、校ト云院ト云ヒ我道においてハ同様信義之盛美不堪希望候也

一月十五日　三圭頓首再拝

池田先生閣下

（1）theuern Rath……teuern Rat（独）貴重な助言のことか。
（2）gelegentlich……（独）臨時に。

3　明治　年五月二十一日

二四〇一　萩原三圭　池田謙斎

本月十三日之書簡御懇切之御垂諭難有拝誦仕候、却説過服願ノ上試ニ事情ハ勿論他ニ向テ難希望儀ニ候得共、所謂人宿味父母之意ニ出候段宜敷御洞察被成下度奉願候、一体宮内出仕之儀ハ方今別而彼武之情実有之不容易儀トハ相信申候、乍然御局ハ当時篤風之下ニ成立候事故、万ガ一ニモ内閣之人ニシテ如芬生量計ノ者ニテモ推挙被致呉候節ハ御局中之儀ニ至りてハ大権之庇麾ヲ蒙リ御彌縫之恩ニ浴候ハヾ如何可有之、誠右様之次第ニ御座候得は事或ハ不叶義も有之間敷乎ニモ奉存候得共、今一応奉再伺候、書餘之巨細不遠拝謁可得奉貴意、先ハ御挨拶旁右迄、拝啓仕候、頓首敬白　三圭

五月廿一日

医伯池田先生閣下

4　明治（二十）年六月二十九日

二三九六　萩原三圭　池田謙斎

拝覧、御下命之趣奉敬承候、然而小生之早座速帰モ長滞留モ聊相厭不申難有仕合ニ奉存候得共、長官閣下之御代理様之儀ハ過分之至同寮ニ於テモ異数之感無キニ非ザラン乎ト恐懼ニ不堪候、乍恐御発賀後何日何時ニテモ御間ニ合候様旅装以居可申ニ付、其儀ハ御休神奉願候、頓首拝復

六月廿九日　萩原三圭

池田長官殿閣下

5　明治（二十）年九月二日

二三九五　萩原三圭　池田謙斎

一昨三十一日之御懇書難有拝見仕候、陳ハ御帰後無間御繁務中ヲモ不被為厭弊廬御恵願荊婦之病気御診察被成下候趣難有仕合と奉存候、高配ニ依テ不日快復ニ相心可申ト安心仕候、扨又宿婦快復後当地へ可参乎否ラズレバ渡辺氏交代云々御懇言之段佐々木Weib[1]へ示談仕候処、両様共不賛成也、甲ハ逗留之日数モ有之間敷餘計之騒動乙ハ曽論御存知之通固執被致居候、就テハ両様共難被行断念仕候間、御放意奉願候、乍然竹井[2]氏ハ佐々木家御夫婦共御信用ニテ同氏滞在中立帰リ（引返シ）帰省可然ト被申聞候得共、此儀ハ又長官閣下之御意中如何ト奉存候、先ハ右御礼旁猶今後之御依頼迄ニ奉呈寸楮候

九月二日　三圭

池田先生高下

二白、御渾家様へ宜敷御致意奉願候也

（1）Weib……（独）婦人、女性。
（2）竹井……竹井静、侍医局医員。旧姓小原。謙斎の書生。

6　明治　年一月十四日

二三九三　萩原三圭　池田謙斎

追啓、常宮殿下之以容躰、昨夜十時半上申書相認メ投函仕置候頃迄ハ御佳候ニ被為入候処、十二時頃ヨリ又々御熱発御煩渇被為在、御飲料御用ニ相成候ヘバ毎回御吐出ニ相成、御薬効ヲ被奏候御時間無之、只々御催脳法ノ外致方ナク困却罷在候間、今朝御拝診之程乍御苦労奉希望候、草々不尽

一月十四日午前六時　三圭

侍医局長殿

7　明治　年九月八日

二三九八　萩原三圭　池田謙斎

昨日ハ宮城へ向けoffizielle Nachricht仕置候様宮様益御機嫌克奉恐悦候、御大便モ硬軟適宜之御発ニテ御消化宜敷、今回ハ御体重御秤量前既ニ御増量ヲ豫ト候処、果而前啓仕候通之御事、何幸如焉此御景況ニ候得は凱陣殆可期乎ト奉察賀候、扨今期ハ竹井氏二位様御供ニテ当地直立相成候ニ付、同氏ヘモ口頭相托候様気候次第本月中旬過ニハ長官殿御出張殿役之程奉希望候、随而宿許患婦ハ御懇配相蒙り高庇ニ依而追日軽快ニ接候趣申越難有仕合セニ奉存候、抑過日之御垂諭ニ深草少将之轍ヲ踏マヌ様ニトハ実以御懇篤之段銘心肝候、先ハ右迄申上度、餘ハ復音ニ残候

九月八日

旧暦の待宵月夜ハ物聞山ニて芋の餅を出すとの事

池先生尊山
二白、御隠居様奉初奥方様御嬢様へ宜敷御致意奉願上候、
昨日ハ小原へ参候処御製調之楽焼茶焼出来居候ニ付、乍
失敬楽書仕置候間、後日御叱之程如何ニ心配仕候、再拝

8　明治　年十一月五日

三三一一　萩原三圭　池田謙斎

拝啓、殿下益御機嫌宜敷、本日ハ学習院へ被為成恐悦至極ニ
奉存候、陳ハ曽テ御下命相成居候御体量表製調并一般体量比
較之抄録前宿直之節相認置候処、未経御覧候趣ニ付呈贈仕候、
右之中質疑相願度廉モ候得共拝芝ニ付候
十一月五日　三圭拝吾
池田先生侍史下

9　明治　年三月九日

二三九九　萩原三圭　池田謙斎

過刻ハ御使札被投奉拝謝候、近来ハ意外之御契濶ニ打過候段、
赧然之至畢竟客冬来種々之事故ニ遭遇百事発馳之姿御恕諒奉
祈候、漸頃日稍閑暇ヲ得候ニ付、不日御安否相伺度存居候場
合御懇招旁必拝趨可仕候、先ハ御受迄匆々如此　三圭頓
三月九日
池田先生侍史下

10　明治　年八月五日

二四〇〇　萩原三圭　池田謙斎

酷暑難堪候得共、益御□[虫]祥可被為成御座奉拝賀候、陳ハ明後
七日好天気候ヘバ近停水辺ニテ納涼旁漁猟相催度候間、別ニ
御構不申上候得共、何卒午後五時頃ゟ御枉駕奉願度候、先ハ
右匆々奉得貴意候
八月五日　三圭頓首
池田先生侍史下

1　明治（二十）年十二月十九日

三一二一　岡玄卿　池田謙斎

拝啓、陳ハ先刻御拝診候明宮殿下度々御便意被為在候得共、
御快通不被遊、六時ニ至リ少々御下痢被為在、引続き御夕餐
不残御吐出被遊、依而拝診仕候処、御趣候不被為在、御脉百
至、御舌ニは格別之御苔不被為在候、腹部ニは臍之辺ニ少々
御痛被為在、唯今御脉五十八至ニ奉伺候、尤唯今ハ御寝被遊
候、御薬ニハ御腹部ニ巴布ヲ貼しゴム漿稀塩酸橙皮舎之水剤

差上置候
即今学習院ニ於テ御試験中ニ付勤務方よりハ可成御通学被為在候様仕度被申聞候間、可成明早朝ニ御拝診相成候様仕度候、右申上度如此御座候、以上
十二月十九日夜　岡玄卿
片山芳林
池田長官殿

2　明治（二十七）年八月二十八日

三一一六　岡玄卿　池田謙斎

謹啓、時下炎熱難凌候処、閣下御転地以来御病状次第ニ御順快ニ被為入候段大慶ニ奉賀候、其後早速御左右可相伺筈之処、公私多忙ニ取紛レ、意外ニ御無音仕候、等閑之段偏ニ御高免成被下度候、陳は過日竹内[1]殿死去ニ付、早々代員御採用之義相伺度罷在候折柄、詳細之御書被下難有奉存候、早々池辺[2]氏へ閣下ノ御厚意申遣し候処、昨日履歴書認メ参リ候ニ付、本日左ノ如ク申立可仕と存候
侍医局勤務、奏任待遇、年俸ハ百円下賜　右は多分四五日間ニは拝命可相成と存候
○　現今侍医ニテ所労引ノ者ハ岩佐登弥太君（右肺上葉ノインヒルトラチヲン）坂田潜造（メランコリー）何レモ症情宜シカラス、急々出勤難相成次第、実ニ目下御多用ノ際ニ如何トモ操合セ困難仕リ候、尚此上壱人ノ所労出来候得は、到底御用便差支出来候場合ニ候、就ては本日申立候池辺ノ外ニ尚壱人ノ勤務ヲ御増員相成候得は、向後ハ如何様ニも都合可相成と奉存候、之ニ付て候補者ハ、磯・柏村・神吉ノ三名ニ御坐候、殊ニ磯・柏村ノ両氏ハ目下地方ノ学校病院長ニ有之、学術トモ評判宜敷、且ツ年令も適当ニ存候、右二名ノ内御採用有之候得は侍医一同異存は無之と存候
○　聖上ハ至極御機嫌御宜敷被為在、御脚気症も格別之御事不被為在候
○　皇后様ニハ尚ホ三週間ノ御延期相成、来月廿日頃還御之御事、御右側之加答児症ハ著シク御消散被遊、多分三週間ノ後ニハ格別ノ御遺残ハ無之と奉伺候
○　満宮[3]殿下ハ昨今御生歯ニ有之、余程脳ノ刺戟症被為在候様相伺候、然シ痙攣等ハ未タ御発シ不被為遊候、御栄養ハ非常ニ悪敷被為在候、橋本君ニも昨日御見舞被遣候御義ニ御座候
右は現今模様申上度如此ニ候、余は後便ニ詳細御報可申上候、尚ホ閣下御保養精々御注意被遊候様奉祈望候、草々頓首
八月廿八日　岡玄卿拝
池田先生閣下
乍筆末御奥様へ宜敷申上候

（1）竹内……侍医竹内正信、明治二十七年七月二十日死去。
（2）池辺……池邊棟三郎、明治二十八年侍医局医員、三十年侍

医。

（3）満宮……満宮輝仁親王は明治二十七年八月十七日死去しているので、本簡は七月廿八日のものか。（田中）

3　明治　年九月十九日

三二三一　岡玄卿　池田謙斎

謹啓、陳は皇后宮午後ヨリ御軽微之御腹痛被為在候、御容躰ニ付只今拝診仕候処、御熱候等更ニ不奉伺、御舌上ニ御白苔アリ、御腹部少々御膨満、且雷鳴アリ、按圧上僅カニ御挛痛被為覚迄ニ御座候、由テ桂皮水メンタ水ノ御水剤ニ菲沃私[1]丸ノ御兼用ヲ調献仕置候、先は右御容躰申上度如此御座候、草々頓首

九月十九日午後九時　玄卿拝

池田先生閣下

（1）菲沃私……ヒヨス。ナス科の一、二年草 Hyoscyamus、ヨーロッパ原産。葉を鎮痛・鎮静・鎮痙薬とした。

4　明治（三十五）年十二月十七日

三一一五　岡玄卿　池田謙斎家扶

謹啓、益御清祥奉拝賀候、陳は御賢息[1]様無滞御婚儀被為整千亀万鶴目出度奉存候、依て甚乍軽微松魚節一折聊御祝之印迄進呈仕候、御笑納被成下候へは難有奉存候、右は御祝詞申上度如是御座候、頓首

第拾二月十七日　岡玄卿

池田謙斎様以家扶御中

（1）賢息様……謙斎の長男池田秀男。明治三十五年十一月二十六日沖守国長女房と結婚したことをさすか。（田中）

1　明治　年九月二十六日

一〇九一　相磯慥　池田謙斎

拝啓、陳は昨日別紙之通り東京府廳ヨリ照会ニ相成候該試験[1]ハ毎朝小生ニ委托スルヲ以テ殆ント例規ト為居候得ハ、今日も是非出題有之様、猶口上ヲ申参り候、且試験ハ十日間ヲ要スル旨ニ御座候、就而ハ如何可仕候哉、小生ハ本月中ハ差支無之候得共、来月ハ主事月番ニ相当居候ニ付、六日間欠勤スルニアラサレハ餘日無御座候、高階君高橋氏ゟハ暫時之事故可成出題スル方可然ト被申候、弥左様ニ相成候ハヽ一日ヨリ六日マテ侍医各位ノ宿番ノミノ処ヲ四番ノ膝代リト相成候、他ハ変ル事ハ無之候、右大略当局之都合ヲ申上ケ御指示ヲ煩

シ度候、早々敬具

九月廿六日　　相磯慥

池田局長殿

尚々、別紙ニ番割御参考之為差上候

（1）該試験……東京府の産婆開業試験か。慥は明治二十八年九月に試験委員を命じられている。

2　明治　年五月二十九日

一〇九三　相磯慥　池田謙斎

拝呈仕候、陳は先刻北白川宮之御懇召ニ対し宿番ニ付御断申上候処、只今宮城侍医局ゟ明日ハ岩佐純殿御出番ニ相成候旨通達有之候、就而ハ謝断之義ハ取消申候、更ニ参館之義御請仕候、毎度恐入候得共右様之義ニ候得ハ宜敷様御取計被下度、此段奉願上候、頓首

正月廿九日　　相磯慥

池田謙斎殿

3　明治　年五月十日

一一一四　相磯慥　池田謙斎

拝啓仕候、陳は遠路御足労難有奉存候、偖一昨日蛔虫下り、昨日ヨリサントニ子御用と相成候得共下ラス、但服薬後一回下利有之候、今日も少々頭重悪心之気味ト被申居候、併シ今日ハ未タ御通利無之候、多分今晩迄ニハアルカモ不知ト被申居候、又昨日ヨリ右腰部ヨリ神経痛起リ候由被申候、歴廻スレハ心持宜敷ト被申居候、併し時々発起スル様ニ御座候、極微弱ナリ、今日内診申上候処、別ニ異状無之、唯紅色ニシテ硬シ、運動制限強ク、動カセハ疼痛アリ、例ノ子宮外膜ノ旧傷依然タリ、腰部ノ疼痛ニハ多ク関係無之様ニ被考候、別テ腸胃ノ方ニ関係無之様ニ被考候、先ツリーマチス性ノ神経痛カト愚考罷在候、御薬御申上候御投薬ハ加減願上度候、猶委細ハ拝顔之上可申上置候、草々頓首

五月十日　　相磯慥拝

池田先生侍史

（封筒表）

池田先生侍史　願用

（封筒裏）

目白にて相磯慥　五月十日

4　明治（三十）年九月一日

一一一三　相磯慥　池田謙斎

拝啓、陳ハ過日ハ細書初仰聞委細拝誦仕候、早速高階侍医へ悉皆相談仕候、小林護氏ハ兼而高階殿ノそは之紀於日殿ヨリ当人へ直様ニ御談し有之筈ニ御座候、当人之返事次第内事課へ申立候手筈ニ御座候、武井氏ハ不取敢五藤氏ト交代為致候

小局典侍ハ誠ニ無異、御始児様ニハ御発育御充分ニ被為在候、御出産豫定日ハ来十八日ニ相当り居候得共、今回ハ少々早マル模様相見申候、併し異変ニ由ルニアラス

別紙品川弥二郎殿ゟ侍医候補之依頼を申越候ニ付、一応御覧ニ入候、若し好機会も有之候ハヽ宜敷御取計被下度、此段更ニ御懇願仕候、右ハ要件而已早々、敬具

九月一日　　相磯慥

池田局長殿

（別紙に医学士土岐文二郎の明治三十年八月付の履歴書が添付されているが省略）

（封筒表）神奈川縣下相州鎌倉長谷村海岸

池田謙斎殿　必親展

（封筒裏）東京青山御産所

品川弥二郎君典書　相磯慥

九月十日

5　明治（三十七）年十月七日

一一二一　相磯慥　池田謙斎

初テ経験スハ充分富シテ居ラルヽモ教ユル側ニハ不向ニ見ユル、又老体テ大儀ナリ、学生ハ弥減少シ、助手ト傍観医師方カ多キ時等わマヽアル　○第二ハクラウス博士、先生ハ新顔テ勉強サルヽノテ評判ヨシ、外科テハブルクマン博士、キューニセ博士、併し小生ハ未タ此三博士の面ハオカマズ、此学期ニ一寸覗ク積テオル　○胎生学テ有名ナルヘルトウヰセ博士ノクルスヲ聴タ（産科ニ必要テアルカラ）、流石専門家タ、教方カ上手テ沢山標本ヲ与ヘラル、評判其外モロシ、○市立病院内科担任ノグラーウ博士ノ血液病理ノクルスヲ聴く（産褥熱ニ関係アルカラ）、凡テ血液ノ変化ヲ見判ルノデアルカラ中〳〵六ヶ敷、殆ント微菌学ト並行スル程ノ学テアルカラ後来診断上必要トナルテアロウ　○当夏休課中南獨之各地ヲ経廻リ、又カル・スバート・マリエンバート・バーヂンバート等ノ温泉湯ノ治療所ヲ見タ、何処デモ水浴法、電気療法、按摩法等ノ設備カアル　○巴里ニ於テハ産院ト婦人科院ヲ見タ、流石ハパステールノ本場丈アリテ消毒法ハ充分ニ舗テアル、其上肝心ノ手術者ノ不手際ニハ非常ニ驚ク、グズ〳〵ノゴム手袋ヲ嵌メ、大キナ針太キ糸ヲ以テヅブ〳〵縫フ等ハ丁度死体ニ行フ時ノ様テアツタ、○倫敦デハトーマス病院ヲ参観スル積ノ処、差支出来テ見ナンタ　○兎モ角何レニ於テモ防腐及消毒トなる事ハ出来得ル限リ注意シテアル　○帰朝マテニハ北西獨己地方ノ二三ノ病院ヲ見ル積ニ御座候、構敷事ハ後吾拝顔之上可申上候、謹言

十月七日　　伯林相磯慥拝

男爵池田謙斎殿閣下

紙尾ニテ失敬ナカラ御令夫人御令息様へ宜敷御伝声願上候

○凡て消毒ハ次室ニ不行ス他人ノ手ニ触レタ様ナ仕懸ニナツテアル、併し欠点ヲ免カレス